

書評

著：中村健一

《総合診療ボックス》

皮膚科医直伝 皮膚のトラブル解決法

書評者：池田正行 (国立秩父学園・内科医)

医学書の書評は、普通、その分野に通暁した専門家に依頼が来る。しかし、皮膚科研修の既往も予定もない私に書評の依頼が来たのはなぜだろうか。

日本皮膚科学会によれば、2007年11月現在、皮膚科専門医数は5,439名。これは、医師数全体27万人の2%にあたる。しかし、私を含めた残り98%の医師も、様々な事情でしばしば皮膚科診療をせざるを得ない。

かく言う私は、半年前までは日本のFDAのDirector Medical Reviewerとしての役所仕事を4年間、その前は、地域の施設で重症心身障害者や精神障害者の診療を10年間、今は五十の手習いで知的障害、発達障害診療研修中の身である。だから、皮膚科はご勘弁願いたいと言いたいところだが、そうは問屋が卸さない。どこもかしこも医師不足の世の中である。当然、いつでもどこでも専門医に相談できる状況にはない。かといって、神経内科専門医の免状を盾に取り、皮膚科はできませんとは、気弱な私は言い切れない。

かくして、見よう見まねさえできない環境で、白癬、脂漏性皮膚炎、自傷、おむつ皮膚炎、疥癬、帯状疱疹・単純ヘルペス、といった診断名を大胆にも下して治療しなければならない立場に追い込まれる。そんな時の私は夜の海でさまよう小舟だった。そして、長い長い漂流の末、出会った灯台が本書である。

プロフェッショナルリズムの大切な要素の一つに、自分の専門分野以外の人々に対する説明責任がある。しかし、残念ながら、このような説明責任を果たした書物は、極めて稀にしかお目にかかれなない。なぜなら、多くの専門家たちは、しばしば蛸壺の中だけで仕事をするがゆえに、蛸壺の外の世界にいる人々が、どんな悩みを抱えているかを意識しなくなってしまうからだ。その結果、専門領域の人間生物学的知識を網羅した教科書ばかりができあがってしまう。それに対して、本書は、まさに一流のプロが、自分の説明責任を見事に果たした結果である。

本書の秘密は、日常診療で遭遇

する問題へのこだわりにある。本書は「最新医学の成果」の類とは無縁である代わりに、今まで皮膚科医以外が、そしておそらく多くの皮膚科医も長年悩んでいたであろう、普遍的な問題の解決方法が満載されている。

灯台守は、灯台から発する信号が適切な形で船に届いているか、常に気を配っていなければならない。本書の読者は非専門医を想定しているが、私は皮膚科専門医も本書を熟読すべきだと考える。なぜなら、本書は良質なコンサルテーションを行うためのお手本になるからだ。余計なお世話と言うなかれ。神経内科医である私が、本書に描かれている著者の姿勢から、診療科の如何に関わらず、コンサルタントはかくあるべしとの教を学んだぐらいなのだから。

● A5 頁208 2007年
定価4,200円
(本体4,000円+税5%)
[ISBN 978-4-260-00506-7]
医学書院刊